

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

《医療系》

●熊本大学医学教育部

「臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

臨床・基礎・社会医学の領域を越えた新たな人材の育成を実現するために、学際領域を含めた幅広い医学知識の修得、先端臨床技術の習得、高い研究マインドの涵養を目指した実質的なカリキュラムを構築した。中でも、関連する学問分野の知識を体系的に習得させるために講義科目を整理し、複数教員のオムニバス形式による授業を実施した。学際的な知識の習得を可能とする実質的で優れた講義体系であると自負するが、授業改善のためのアンケート調査では、50%の大学院学生が、単位修得に必要な回数の講義に出席することは困難であると回答し、大学院教育の実質化の困難さを浮き彫りにした。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

講義への出席を困難にする主な要因は、実験・研究があるため時間がとれない、社会人学生であるため業務時間が講義時間と重なる等、大学院教育における授業の実質化が抱える本質的な問題を提示している。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

研究活動のため時間が取れない学生、社会人学生、遠隔地学生、外国人留学生および出産・育児等により日中の講義に出席できない学生への支援として、eラーニングシステムを構築した。既に40%の講義がeラーニングに対応しており、39%の履修生がこれを利用していることから、授業に出席できない学生の履修を促進する上で効果を上げている。今後もこのシステムを継続しつつ、コンテンツのさらなる充実と履修生の利用促進を図るため、履修ガイダンス、ホームページ、eメール等により周知を図る必要がある。